

青鬼地区重要伝統的建造物群保存地区  
選定 20 周年記念誌

# 白馬村青鬼 保存のあゆみ



白 馬 村  
白馬村教育委員会



## 目次

伝統的建造物群保存地区制度の概要	5
青鬼地区の概要	5
白馬村青鬼重要伝統的建造物群保存地区	6
白馬村・青鬼の歴史	7
主屋／土蔵	8
青鬼神社／火揉みの神事	9
青鬼の石仏群／青鬼堰	10
棚田と石垣／ガッターリ	11
紫米／お善鬼の館	12
修理・修景事業	13
青鬼集落の民話	14
保存地区内物件一覧	16

※写真・イラストの一部は宮澤智士先生編集「白馬桃源郷青鬼の集落」から転載しています。

## 白馬村青鬼伝統的建造物群保存地区 選定20周年を迎えるにあたって

白馬村長 下川 正剛

平成12年に白馬村青鬼が文化財保護法による国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されて、20周年を迎えました。

白馬村はスキーや登山など山岳観光で発展を遂げてきましたが、遙か昔から北アルプスを眺めながら暮らしてきた先人の文化が多く残されています。

その中でも青鬼地区は、江戸時代から明治時代にかけて建築された伝統的な主屋や土蔵、石垣により形成される棚田、青鬼神社や石仏群など、歴史と文化を感じることができる象徴的な地域です。

20年間にわたる保存事業の歩みの中で、適切にご指導をいただいた文化庁をはじめ、国・県関係当局各位に心から感謝申し上げますとともに、有形・無形の貴重な財産を後世に残し伝えるために保存活動に取り組んでいただいている地域住民の皆様には、厚く御礼申し上げます。

多くの皆様のご理解とご協力により歩んできた道を受け継ぎ、国内外から訪れる多くの方が集落の風景に心を奪われ、先人の暮らしに想いを馳せるかけがえのない青鬼地区の保存・整備・活用を推進することで、青鬼地区がますます発展することを心から祈念申し上げます。

### 伝統的建造物群保存地区制度の概要

伝統的建造物群保存地区（伝建地区）は、歴史的な町並みを構成する建造物や工作物、周囲の環境を含めて一体的に保存することを目的として、昭和50年の文化財保護法の改正に伴い新たな文化財の種類として位置づけられたものです。

長い年月をかけて何代にも亘り受け継がれてきた貴重な日本の文化遺産である城下町、宿場町、門前町など、全国各地に残る歴史的な集落・町並みについて、文化財として保存すると同時に、現役の生活の舞台として整備し、次世代に伝える取り組みを進めています。

保存事業に対して国（文化庁）は補助金などの財政的支援と技術的指導を行うほか、地区内の建築行為等に一定の制限を設け、良好な歴史的風致の維持継承を図っています。

重要伝統的建造物群保存地区は、全国101市町村で123地区あり、約29000件の伝統的建造物及び環境物件が特定され保護されています。



### 青鬼地区の概要

青鬼地区は、白馬村の北東部、東山の山腹標高約760mに位置する小規模な山村集落で、北には岩戸山、東には物見山や八方山に囲まれ、南西には五竜岳を中心に北アルプスを望む雄大な景観を有しています。

地区の中には、縄文時代中期・後期の善鬼堂遺跡・馬場遺跡があり、古くから人々の生活の場であったことが知られています。

集落は、なだらかな南斜面の傾斜地に形成され、建造物群は等高線に沿う形で東西約250m、南北約100mの中にほぼ三日月形状に2段に並んでいます。主屋は江戸時代後期から明治時代にかけて建築された茅葺の大屋敷が多く、現在は鉄板被覆の主屋が14戸残されています。また、伝統的な土蔵が主屋から少し離れて8棟あります。集落各戸の敷地境は道路と若干の植栽あるいは石垣や水路などで区画され、特に周囲に塀や生け垣を設けることもなく開放的であり、斜面地のため南面する主屋の背後には石垣が築かれています。主屋の周囲には納屋等の付属屋があり、土蔵は主屋と離れて造られているものが多く見受けられます。

万延・文久年間（1860～63）には、当時の青鬼集落24戸によって用水路である「青鬼上堰」（延長約3km）開削という大土木工事が行われ、集落の周辺に石垣を有する棚田が開かれるようになりました。屋敷地の周囲にも若干の耕作地がありますが、集落の東方には石垣により築かれた小規模で形も様々な約200枚の棚田が広がり、祖先の偉業を現在に伝えるものとして貴重な存在であるほか、棚田百選にも選定されるなど青鬼集落

の景観を形成する大きな要素となっています。

集落の入口付近には向麻石仏群、阿弥陀堂石仏群があり、集落中央部の北方には長い石段と石畳が延び、これを上ったところに鎮守の青鬼神社があります。青鬼神社では、5月に春祭、9月に本祭、11月に秋祭が行われるなど、住民の生活にとって欠かせないものとなっています。

北アルプスと棚田、伝統的建造物群等が織り成す景観は、四季を通じて歴史と自然の美しさを感じることができ、後世に守り伝えていくべき貴重な財産です。



白馬村青鬼重要伝統的建造物群保存地区

選定年月日

平成12年12月4日

所在地及び面積 長野県北安曇郡白馬村大字北城青鬼(59.7 ha)

指定物件

- ・建築物 29件
- 主屋、土蔵、蔵、消防小屋、青鬼神社、諏訪社、神楽殿
- ・工作物 200件

- 向麻石仏群、棚田石垣、石垣、馬頭観音、氏神様、阿弥陀堂内陣、
- 阿弥陀堂石仏群、稻荷社、石灯籠、幟立て、神社参道石段・石畳、石祠、
- 神社鳥居、神社手水鉢、小祠、三峯様、観音様、地藏、青鬼上堰、青鬼下堰
- ・環境物件 6件
- ホウノキ、スギの大木、カツラの大樹、桂の清水、抜け止めのカツラ、馬場の清水

指定・認定等

- ・青鬼の棚田「日本の棚田百選」
- 平成11年7月26日 農林水産大臣認定
- ・カツラの清水「姫川・関川水系の水百選」
- 平成8年12月2日 北陸地方建設局高田工事事務所長認定
- ・青鬼地区の夕景「信州のサンセットポイント百選」
- 平成11年 長野県観光連盟認定
- ・青鬼神社祭典火揉みの神事「白馬村無形文化財」
- 昭和60年1月24日 白馬村指定

白馬村・青鬼の歴史

古代の白馬村は、弥生時代以降になると南部神城地区の湿地帯を取りまく段丘上に米作りの集落群が起り、古墳時代に入ると支配者たちが墳墓を築いたことから、神城地区には20基を越す古墳が確認されています。

また、白馬村は姫川で新潟県糸魚川市と通じ、白馬山麓から産出されるヒスイが縄文時代から古墳時代までの谷から運ばれました。後年「千国道」と呼ばれる街道は、遙かな縄文時代はその姿を現し始めていました。青鬼集落の周辺にも、縄文時代中期〜後期の善鬼堂遺跡・番場遺跡があり、古くから人々の生活の場であったことが知られています。

今から800年ほど前は、この辺りは千国庄と呼ばれ六条院領でした。六条院とは、白河上皇が長女都芳門院嫡子内親王の御所として建てたもので、内親王の死後はこれを寺として多くの荘園の寄進が行われ、千国庄もその一つとされています。戦国時代の四ヶ庄は、前期六条院領でしたが、実際の支配者は土地の豪族仁科氏の枝族で三日市場に居住する沢渡氏でした。

慶長19年(1614年)に松本藩により、大がかりな地検が行われ、この時石高が示された村は、佐野、沢渡、飯田、飯森、桐山、蕨平、塩島の7村のみでした。その後、慶安元年(1648年)から承応年間(1650-1659)にかけて、細野、大出、野平、峰方、深沢、空峠の各村が新田村として独立を認められ、漸次現在の地区形態ができることとなりました。

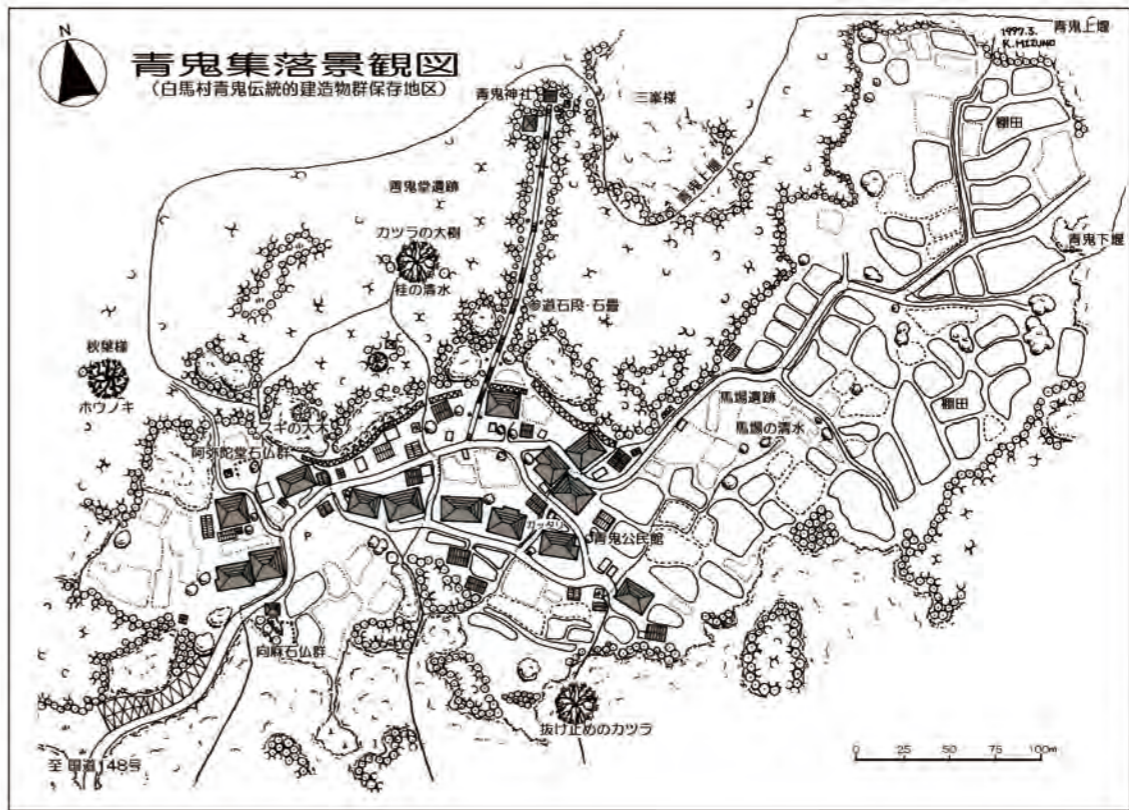
その頃の青鬼は、松本藩大町組塩島村の枝郷でした。塩の運送に使われた塩の道千国街道の千国宿から分かれ

た善光寺・戸隠道は、青鬼を通り、柄山峠を越えて、鬼無里村を経由し戸隠神社・善光寺に向かっていました。万延・文久年間(1860〜63)には、当時の青鬼集落24戸によって用水路である「青鬼上堰」(延長約3km)開削という大土木工事が行われ、青鬼集落の周辺に現在の棚田状の水田が開かれるようになり、棚田の石垣もその頃までには築かれたと考えられています。

青鬼下堰は、明確な年代はわからないものの青鬼上堰が完成して間もなく造られたものと考えられ、青鬼上堰と平行する形で約30m下側に設けられています。青鬼地区では、明治40年(1907年)に集落の中央部にある9戸を焼失する大火がありました。直後に焼失家屋それぞれが伝統的な茅葺きの主屋を再建し、集落全体の景観に大きな変化はありませんでした。

江戸時代、信濃(長野県)側から容易に近づけなかった白馬岳に、明治26年にはウエズトンが登山、同31年には河野零蔵等の学術研究登山がなされて全国にその名が知られるようになりました。同40年には山小屋も設けられ、白馬の観光の基礎となりました。

その頃の白馬村の産業は、水稻、養蚕、麻を中心とする純農村で、一雨降れば荒れ狂う平川・松川に苦しみながら新田を起し、人々は昔ながらの細々とした暮らしを続けていました。明治後期、日本に伝えられたスキーは、大正時代になると白馬山麓にも普及し、山岳スキー場として学生や山岳家に認められるようになりました。細野(現在の八方)は、昭和21年頃から民宿営業を始め、戦後スキーは大衆化していききましたが、スキー場にリフトがかけられたのは、昭和27年以降のことで、白馬村が誕生した昭和30年代こそ現代に至る白馬村の観光の革命時代でした。

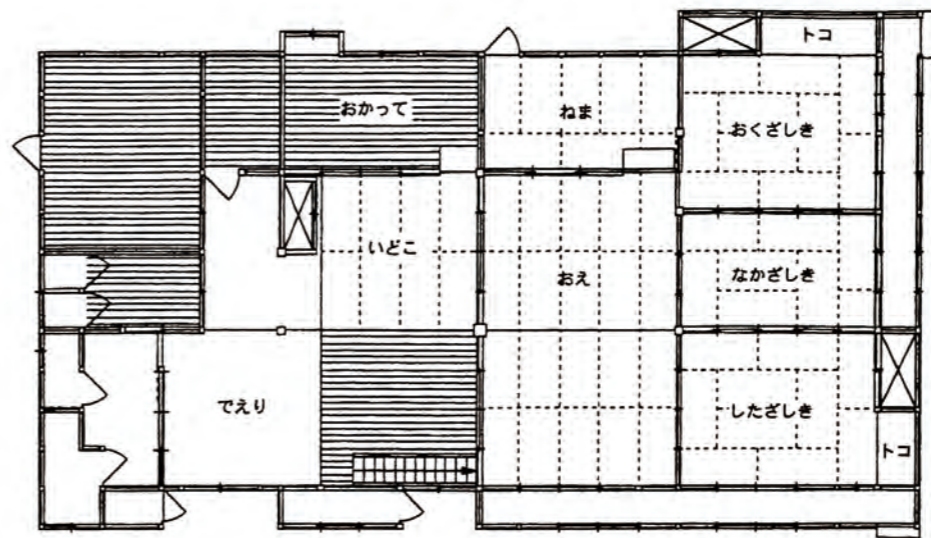


その頃の青鬼集落は、周辺の集落と同様に近代化や産業構造の変化、人口の流出と過疎化が進み、幕末に24戸あった家も昭和60年代には15戸に減少しました。戸数の減少に伴い、かつての畑が杉林に変わるなど耕作地の形態には変化が生じてきましたが、景観の基本的な部分は近世以来の伝統的な状態を保っています。



主屋

現存する主屋のうち14棟が茅葺屋根（現在は鉄板被覆）の建物で、平屋の建物と表側に中二階を造る建物があります。主屋が等高線に沿って棟を連ねている点が青鬼集落の特色で、同じ形態の建築が規則的に建って並ぶ様子は、極めて特徴的で印象的な農村景観を形成しています。主屋は、正面の軒をせがいで造りとし、特に中二階の建



物では屋根の正面をかぶと造りにして、二階の壁面を白壁と化粧貫の意匠で統一しています。また、主屋の間取りは、部屋の並ぶ形式によって「三間づくり」、「四間づくり」と呼ばれ、太い柱が部屋境に2列あるいは3列に並んでいるのが特徴です。青鬼集落に現存する建物の多くは江戸時代末期から近代に建てられたもので、最も古いとみられるものは19世紀前期に遡ると推定されています。



土蔵

附属建物のうち、土蔵は火災を考慮して居住部分から少し離れた場所に建てられているものが多くあり、こうした配置も青鬼集落の特色とされています。

土蔵の屋根は板葺（現在は鉄板葺）の置屋根形式で、外回りに柱を立て、貫を5段ほど入れ、そこに藁を架けて雪囲いとするのが晩秋から冬季に見られた景観の特徴となっています。



青鬼神社

集落中央部の北方に長い石段と石畳が延び、これを上ったところに鎮守の青鬼神社があります。

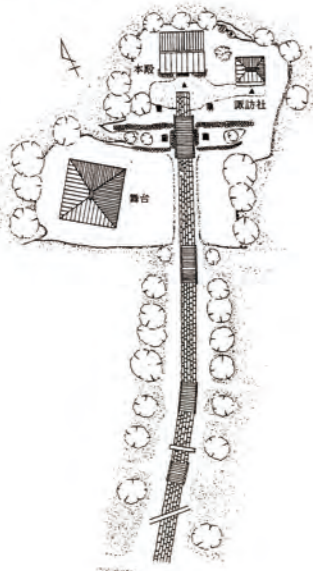
青鬼神社の創始は大同年間（806年〜809年）と伝えられ、今の神社の本殿は明治26年（棟札）に、また覆屋は明治時代中期に建造されたものです。祭神はお善鬼様で、生前に村人のために善行を施した鬼を、その死後、大同年間に白馬山の洞窟に祭ったと言われています。その後、安和2年（969年）に遥拝所（遠く離れた所から拝む場所）として今の場所に建立されました。毎年9月20日の祭典の際には、村人による花火の打ち上げ、白馬村の無形文化財に指定されている火揉みの神事、灯籠揃えなどが行われ、古い伝統をよく伝えていきます。また5月に春祭、11月に秋祭も行われています。

青鬼神社には、本殿、諏訪社などの社殿及びこれらの覆屋、神楽殿、鳥居、石祠などが配置されています。本殿は一間社流造、こけら葺きで、明治26年（1893年）に造られたものです。覆屋（本社）は、間口12尺、奥行17尺、切妻造、鉄板葺（元茅葺）で、前4.5尺を吹放ちとして縁を三方に設けています。建築年代は本殿と同年代と考えられています。青鬼神社本殿の東側にある諏訪社の本殿は、一間社流造、見世棚造、板葺で、延享4年（1747年）に造られたものです。また、覆屋は、間口8尺、奥行7尺、寄棟造、茅葺（鉄板被覆）の建物で、建築年代は本殿覆屋と同じ明治時代中期と考えられています。本殿・諏訪社の境内より一段下の境内に参道を向いて神楽殿（明治時代の本殿棟札では拝殿と称する）が配置されています。神楽殿は間口4間、奥行3間4尺、

寄棟造、茅葺（鉄板被覆）の建物で、奥行の後半には中二階が造られています。建築年代は本殿覆屋・諏訪社覆屋と同じ明治時代中期と考えられています。



青鬼神社



火揉みの神事

白馬村の無形文化財に指定されている火揉みの神事（火鑽りの神事とも言われます）は、毎年9月20日青鬼神社の祭典時に年番の家で行われていました。（現在はお善鬼の館で行われています）

祭神に奉納するために、聖なる火を起こして、それを神社の灯明、常夜燈や各家々の神前と灯籠、打ち上げ花火などに使用します。

火揉み盤にはヒノキ板、火揉み棒には地元ではカズと呼ぶコウゾの乾燥した棒を用います。ヒノキ板にコウゾの棒を垂直に立て、両方の手のひらで力を入れて30分くらい激しく揉み込むことで、木口から粉灰がこぼれ落ち、過熱するとその粉灰に火の玉状のものができ、煙が立ちのぼります。息を吹き込みながら火勢を大きくし、つけ木っぱを添えて炎とし、ローソクに移します。

極めて素朴で原初的な伝統を伝える文化遺産です。



### 青鬼の石仏群

青鬼集落には二つの石仏群があります。  
向麻石仏群

集落の入口にあるこの石仏群には、道祖神、庚申塔（享保10年、万延元年、昭和55年）、大日如来、馬頭観音など27基が並んでいます。

特に写真の道祖神は素朴な二人の神の立像であり、田んぼの畔の片隅に穏やかな微笑みをたたえています。男神が盃を、女神がふくべを持ち、気取ったところがなく、気品としみじみとした愛が漂う彫琢の素晴らしさは、作者も造立年も不明ですが腕前の良い石工の作品とされます。



### 阿弥陀堂石仏

千部塔（宝暦7年）、庚申塔（宝暦11年、寛政12年、大正9年）など28基が並んでいます。

阿弥陀堂は戦後に再建されたものですが、内陣は墨書から天明5年（1785年）のものとなり、木鼻の形式に時代的な特色がよく示されています。多くの地藏像や菩薩像の造立年は不明ですが、福寿草の咲き乱れる墓地和隣り合わせ、民俗伝承も多くあり、民間信仰や庶民信仰の中で青鬼の里の民俗の歴史は深く多彩であると言えます。



### 青鬼堰

青鬼堰（あおにせぎ）は、水田から東北に約1500m離れた地点と、さらに500mほど遡った地点に取水口を設け、2系統で引水しています。

青鬼上堰は万延・文久年間に、4年の歳月をかけて完成された水路で、現在も使用されており、祖先の偉業を現在に伝える貴重な存在です。約290mにわたり急な岩盤をノミで削って水路を開削した箇所があるほか、一部は粘土で堰の底を突き固められています。集落の東側の水田を潤し、青鬼神社の一段上を迂回するように流れ、集落の外れで沢に落とされています。

青鬼下堰は、青鬼上堰が完成した後、間もなく設けられたものと考えられ、青鬼上堰と平行して設けられており、東側農地の下半分の水田に給水しています。規模は青鬼上堰の水路幅が約50cm〜100cmであるのに対し、青鬼下堰の幅は約30cm〜50cmと小規模ではあるものの、部分的には急な岩盤をくり抜いて造られた場所もあり、青鬼上堰とともに貴重な存在となっています。



### 棚田と石垣

集落の東側、小高い傾斜地には石垣により形成される小規模な棚田が広がっています。

青鬼の棚田は、平成11年に「日本の棚田百選」に認定され、令和2年には棚田地域振興法の指定棚田地域に指定され、地元組織を中心とした保全活動が行われています。



大小様々な石で積み上げられた石垣は、幕末から明治期にかけて水田が開かれたときに出てきた野面石を使用したものと伝えられ、総延長は4kmを越え、高さ3mを超えるものもあります。

棚田や石垣についても、先人の偉業を伝える貴重な財産であり、青鬼集落の景観を形成する大きな要素にもなっています。

### ガッター

昭和の初め頃までに使われていた、水力を利用して米を搗く道具です。「ししおどし」と同じ原理で動き、添水唐臼とも呼ばれます。

青鬼地区ではお善鬼の館の横にあり、地域のシンボルとして保存されています。





改修前



改修後



改修前



改修後



改修前



改修後

実施年度	事業主	区分
平成 22 年度	降旗泰二	主屋
平成 23 年度	降旗泰二	主屋
	青鬼神社	鳥居
平成 24 年度	郷津晴三	主屋
	山本利光	主屋
平成 25 年度	郷津晴三	主屋
	松倉守登	石垣
	青鬼神社	参道石段
平成 26 年度	山本麻人	主屋
	郷津晴三	屋根
	山本利光	石垣
平成 27 年度	山本麻人	主屋
	災害復旧	
平成 28 年度	松倉博樹	主屋
平成 29 年度	松倉博樹	主屋
	山本利光	石垣
平成 30 年度	松倉博樹	主屋
	松沢伸生	土蔵
	山本利光	倉庫
平成 31 年度	降旗泰二	土蔵

実施年度	事業主	区分
平成 13 年度	山本 巖	主屋
	白馬村	案内看板
平成 14 年度	白馬村	土蔵
	西沢寛治	主屋
平成 15 年度	降旗隆司	土蔵
	降旗親男	主屋
	西沢寛治	主屋
平成 16 年度	山本友衛	土蔵
	降旗親男	主屋
	降旗隆司	主屋
	山本利光	納屋
平成 17 年度	松倉 広	倉庫
	降旗親男	主屋
平成 18 年度	山本利光	主屋
	山本友衛	主屋
平成 19 年度	山本利光	主屋
	松倉 広	主屋
	松倉 広	土蔵
平成 20 年度	松倉 広	物置
	西沢唯利	主屋
	西沢寛治	石垣
	松沢伸生	土蔵
	松沢伸生	稲荷社
平成 21 年度	西沢唯利	主屋
	松沢伸生	石垣
	松沢伸生	鳥居
	松沢伸生	稲荷社

修理・修景事業

青鬼地区では、平成12年に伝統的建造物群保存地区に選定されたことを受け、平成13年度からこれまでの間に、主屋12件、土蔵等11件、その他9件（石垣・神社等）、合計32件の修理・修景事業を実施してきました。主屋や

土蔵は屋根の葺替や外壁修理、土台の入替等を実施し、石垣については積み直し等を行うなど、昔ながらの風景の保存に努めています。平成26年11月に発生した長野県神城断層地震においても、主屋や土蔵、石垣などに被害が及びましたが、速やかに復旧工事を行いました。

紫米



青鬼の棚田では、他の米と交配せずに栽培できる立地性を活かして、白馬村の特産品である「紫米」を低農薬で栽培しています。紫米には「南京香稻」と「朝紫」の2種類があり、「南京香稻」は古代米の原種で、細長く穂が実と脱粒してしまい、通常の米の3分の2程度しか収量できません。「朝紫」は、脱粒しないよう改良された品種で、形も普通のお米とほぼ同じ形状をしています。おはぎの起源とも言われる紫米は、ポリフェノールの一種であり抗酸化作用を有するアントシアニンがブルーベリーの約3倍含まれ、ビタミンやカルシウム、マグネシウムといった栄養素が詰まっています。白米に少し混ぜて炊くと、ほんのりとした紫色に美しく染まります。道の駅白馬などの村内土産店にて紫米やその加工品を販売しています。

お善鬼の館



お善鬼の館は、空き家となった建物の修理を行い、地区内に無かった公衆トイレを併設して、交流・体験施設として平成17年に完成しました。内部を自由に見学でき、休憩などをしながら集落の生活を体感することが出来ます。また、施設としての貸出も行っており広く利用されています。施設の名称である「お善鬼の館」は、この地区に昔から伝わる「青鬼のお善鬼様」の民話が基となっています。施設は、青鬼集落保存会の方々により年間を通して管理されています。



## 青鬼集落の民話

### 岩戸山のお善鬼さま

青鬼の岩戸山の上に善鬼の住んだという岩屋があった。椀貸伝説がある。

昔、青鬼の男衆達がこの岩屋を調べようというので、前日から村の善鬼堂にお籠りして特に潔斎し、食事も宮で煮炊きして山へ登ったことがある。

穴の入口はやや狭いが、入ると中は洞になっていて、方二間くらいの広さがあり、床は小石や砂利で平らになっていてまわりは岩壁で天井の高さは七尺ほどもあり、大昔は人でも住んでいたらしい所であった。なおその洞から横に通ずる狭い裂目があって、小柄な人が入って見たが、そこには前記の洞よりはまた狭い洞があり、さらに小さな裂目が奥に通じているのが見えたが、そこまでは窮めなかった。俗にこの穴は戸隠の裏山まで通じているとも言われている。

この岩屋の辺りには水がたまり落ちているが、それは三人行けば三人ほど、五人行けば五人ほど十分に飲む分量が出るという。山の上だが湿気があり水がある。眺望は目の下に四ヶ庄平・西の岳を思うさまみるこゝとができる。岩の下の原には、しし岩・とさか岩というような巨岩があって、岩土の宝となっている。

また、穴から向こう側には黒味勝ちの切り立った岩があって、屏風岩、俗に「青きしし」と呼んでいる。

が、夜になってふと見ると、岩の上に若い娘があんどんをすえて糸をとっている。彼はねらいを定めて撃つたが、どうしてもあたらない。女は鬼洪の方を見て笑うばかりである。何度やっても同じ事だった。そこで最後にあんどんの火を目かけて射ったところが、「洪右衛門洪右衛門、えらい事をするな」という声がしたかと思ったら、ぱつとその姿は消えてしまった。翌朝その辺を捜してみたら、このふけた野猿が、弾にあたって死んでいた。

これも西山へ狩にいった時の事であるが、急に夕立が来て谷川が増水した。どうしても向こうへ渡れない。と、川上の方から黒い河水が流れて来てうまく向こう側へかかって、いい橋になった。二人はようやく渡った。渡り終わってから彼は弟に向かって「これさ、さっきの橋はてめえは何と見たや」といった。弟は「おらあ黒い大木だと思ったが」と答えた。洪右衛門は「ぶむ、そうだったのかな」といって嘆じて「お前、あれの正体を見極め得なかったとすると、これからは狩には連れて行くわけにはならんぞよ」といった。その丸太と見えたのは、実は大きなうわびだったともいい、しゃくとりだったともいう。それ以来二度と弟をつれては、西の岳へはいかなかったと言う。いつもひとりて白馬山の奥深くの山々を狩てくらしただけのことである。

また、洪右衛門は、東山では戸隠の奥の方へも常に出かけた。そこには上の淵と下の淵とがあって、上の淵は狭くて水もかわいているのに、下の方は青い波を立てて美しかった。そのおのおのには主が住んでいた。鬼洪がある日、下の池の近くへ行くと、そこへ立派

この辺りまでは、村の人も昔は、草刈りに来たがめつたに穴を覗くような事はしない。もし入ろうとしたら大荒れになるか、災害があると言われる。もしどうしても入ろうとする必要がある時には、七日間、浄化潔斎した後に、なすべきだと伝えられている。女は月のさわりのある時は無論遠慮すべきだと言っている。ある時、山へ青物を取りに行ったのか、子供をつれた老人がこの穴の辺りから原へ投げ飛ばされ気絶した事があったという。

昔は、ここに椀や膳を貸してくれる者がいた。近郷に大寄りができ、膳椀に不足した時は誰でも膳椀何人分といつてこの穴の前でお願いする。後で行ってみると、お願いしただけの数が必ず揃えて岩の外においてあった。ところがある人が、はながさ（お椀の蓋）を一つ返さなかった。それきり貸さなくなってしまったという。

お善鬼様は明治三十年頃までは伝染病の神様として災厄除けに遠近から多くの信者が集まった。村の善鬼堂（青鬼神社）の長い石段は、そうした人々の寄進でできたものである。高遠辺りの人々の名前も刻まれている。お善鬼様にお願ひするには、赤い紙を刻んでお願いする。一枚古いものを貰っては二枚にして返す。古いものは、お守りにしたり、おん符としてのんだりした。

な娘が現れて言うのに「洪右衛門よ、どうかおりいつての頼みだが、お前を見込んでのことだからどうか聞いてくれよ。長い間住みなれたこの池も、今夜こそ上の男竜に横領されてしまうのだ。ずっと前から上の主は私に池を渡せといつて責めているのだ。いよいよ、今夜こそ言ひのがれることはできない。お前が上手な獵師だという事も、黄金の弾丸を貰い受けていること

も知っているから頼むが、今夜こそ滝を乗りきって、あの瀬を長々と火の玉のような眼をもった者がのぞき込むところを、ねらいを定めて撃つてくれ。一矢さえしとめてくれれば、あとは私が必ず勝つ。しかし、お前が手伝ってくれなければ、残念だが私は食い殺されてしまい、この池を取り上げられてしまう。」とのこと。洪右衛門は引き受けて、夜になるのを待っていた。やがて豪雨がやって来て、すさまじい勢で滝を乗り越えて来る大きな火の玉が見えだした。ところが火縄が消えてしまつて鉄砲を打つわけにはいかない。すると火の玉が下の池に転び込み、下の池からは水煙が立ち、恐しい斗争が続いた。夜が明けて見たら、池は血に染まり、女竜の死骸は大きな白のようによくつかに食いちぎられて浮かんでいた。洪右衛門は、約束を果たせなかつたということを残念がったという。

一説によると、この話は戸隠の裏山でなく白馬山の二子岩付近であり、その二つの池は今も欠損してしまつたともいい、その岩の主と下の池の女竜とは相思の間柄であつたというようにも伝えられ、二個の黄金の弾丸は一二個となり、男竜を打てなかつたのは雨のせいでなく恐れたたためだともいい、さらに黒菱の上に巨人が女性となつて現われ、洪右衛門は、これを射つ

### 獵師の洪右衛門の話

昔、青鬼に洪右衛門という獵師があつた。身のたけは六尺に余り、ずいぶん力が強く、ある時松本の城下に江戸までもがあつて、四ヶ庄では大出から一人、青鬼からはこの洪右衛門が出たが、音に聞こえた大力の相手をぐつと抱きしめて、土俵の外へ出してしまったという。いつも一貫二百匁もある大鍬を振り振り大きな畑を耕していたという。ひげだらけでそのうえ、ほうそうのあとがあり、すねの毛はさかさに生えていて四寸もあつて、それを薬でくれば、きゃはんがいらなかつたといい、「青洪」とも「鬼洪」とも言われていた。幼い時から狩が好きで、一年中ほとんど山野を駆けめぐっていたという。

ある時洪右衛門は、西山へ狩に行つて白馬鍾ヶ岳付近の二子岩の穴の中で泊つたことがある。奥の間では岩の主の餅をつく音がしていた。と、ガラガラと戸を開けて、「洪右衛門洪右衛門、この餅はここでいくら食べてもいいが下へ持つて行くなよ」と巨人はとめたが、あまりにうまかつたのでこっそり一つ懐に入れて山を下つた。奥の駒返し所のままで足をふみ損ねて餅を落した。さがして見たがそこには石しかなかつた。岩の主はその時また、黄金の弾を二個くれた。その弾はなんでも好む所へ射てば必ず命中し、左手をのばしていると、再び手のひらに帰つて来るという奇妙な弾だつた。別れる時に岩の主はいった。「洪右衛門洪右衛門、この弾が返つて来ない時があつたら獵師は止めにするがいいぞよ。」

鬼洪がやはり西山で狩をしていた時のことであつた

たが一二個の弾丸をその女にみんな受けとられてしまつたのだとも言い伝えられている。洪右衛門の持つたという南蛮鉄四尺二寸という法外の大きな銃・さす（狩刀）・野やり、松本様から戴いたというものは今も個人や神社の宝物となつて残つていてその所有は明らかである。

また、洪右衛門についてこんな話も伝えられている。二子岩の主から黄金の弾丸を二つ貰う時に主はこう言つた。「お前はここの弾丸をもつてお前の一番大切にしているものの生命をとれ」と、そしてもしそれをうてなかつたら気の毒ながらお前の命は絶たれてしまうとの事であつた。洪右衛門は、自家に帰つて来た。と見ると馬屋に自分の馬がいた。これを射つてやろうと考えたが、「待てよ、馬はなるほど大切だが一番おれにとつて大切かどうか、馬は金さえ出せばまた買うことができる。かけがえのない一番大切なものは馬じゃない。」そう思つて家の中を見ると、そこには自分の妻が糸をとっている。そこで洪右衛門は何と思つたかこれだと思つた。これこそ自分の一番大切なものだ、金でも買えない、かけがえのないものだやにわに銃をもつて黄金の弾丸を発射した。ところがそれは妻を射ちぬきなお向こうにあつた長持ちをぶち抜いた。その長持ちの中には妻の間夫がひそんでいて、やはりその弾丸にあつて絶命したといわれている。

「岩戸山のお善鬼さま」「獵師の洪右衛門の話」

昭和四十五年八月二十日 白馬村公民館発行「白馬のしるべ」より



保存番号	種別	員数	所在地
60	石垣	13.0m	白馬村大字北城字前田 17668 番地
61	石垣	13.0m	白馬村大字北城字前田 17668 番地
62	棚田石垣	60.0m	白馬村大字北城字前田 17642 番地 1～2
63	石垣	17.0m	白馬村大字北城 17640 番地
64	石垣	24.0m	白馬村大字北城字家裏 17635 番地
65	石垣	27.0m	白馬村大字北城字家裏 17496 番地 2～17,513 番地イ
66	石垣	7.0m	白馬村大字北城字家裏 17496 番地 1
67	石垣	13.0m	白馬村大字北城字家裏 17500 番地 4
68	神社参道の灯籠 1	1 対	白馬村大字北城字中麻 17505 番地 2 先
69	神社参道の灯籠 2	1 対	白馬村大字北城字家裏 17498 番地□先
70	神社幟立て	1 対	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
71	神社参道の灯籠 3	1 対	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
72	石祠	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
73	青鬼神社鳥居	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
74	神社手水鉢	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
75	小祠 1	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
76	小祠 2	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
77	石祠 1	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
78	石祠 2	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
79	石祠 3	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
80	神社参道の灯籠 4	1 対	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
81	神社参道の灯籠 5	1 対	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
82	神社参道の石段・石畳	石段 227 段・石畳 100m	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地～家裏 17495 番地 1
83	三峯様	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17058 番地
84	石垣	24.0m	白馬村大字北城字家裏 17495 番地 1～2
85	石垣	7.0m	白馬村大字北城字家裏 17522 番地
86	石垣	13.0m	白馬村大字北城字家裏 17428 番地
87	石垣	4.0m	白馬村大字北城字杉ノ木 17523 番地 1
88	石垣	20.0m	白馬村大字北城 17514 番地
89	石垣	15.0m	白馬村大字北城 17514 番地
90	石垣	7.0m	白馬村大字北城 17637 番地
91	石垣	8.0m	白馬村大字北城 17637 番地
92	石垣	33.0m	白馬村大字北城 17622 番地～17640 番地
93	石垣	8.0m	白馬村大字北城 17622 番地
94	石垣	15.0m	白馬村大字北城 17620 番地
95	石垣	18.0m	白馬村大字北城字前田 17655 番地～17659 番地
96	石垣	10.0m	白馬村大字北城字荒田口 17610 番地～17611 番地
97	石垣	55.0m	白馬村大字北城字荒田口 17612 番地イ～17617 番地
98	石垣	30.0m	白馬村大字北城字宮下 17623 番地
99	棚田石垣	62.0m	白馬村大字北城字荒田口 17616 番地イ～宮下 17633 番地
100	棚田石垣	28.0m	白馬村大字北城字荒田口 17616 番地イ～宮下 17627 番地
101	棚田石垣	28.0m	白馬村大字北城字宮下 17625 番地イ-2
102	棚田石垣	26.0m	白馬村大字北城字宮下 17538 番地
103	棚田石垣	38.0m	白馬村大字北城字宮下 17633 番地
104	棚田石垣	14.0m	白馬村大字北城字宮下 17633 番地
105	棚田石垣	18.0m	白馬村大字北城字宮下 17632 番地
106	棚田石垣	28.0m	白馬村大字北城字宮下 17527 番地
107	棚田石垣	50.0m	白馬村大字北城字塩島麻 17528 番地～宮ノ根 17539 番地
108	石垣	40.0m	白馬村大字北城字庭麻 17634 番地 1～17637 番地
109	石垣	10.0m	白馬村大字北城 17636 番地
110	石垣	11.0m	白馬村大字北城字釜屋麻 17598 番地
111	棚田石垣	42.0m	白馬村大字北城字宮下 17527 番地～17631 番地
112	棚田石垣	20.0m	白馬村大字北城字宮ノ根 17593 番地～字宮ノ根 17591 番地
113	棚田石垣	18.0m	白馬村大字北城字宮下 17625 番地イ
114	棚田石垣	54.0m	白馬村大字北城字宮下 17630 番地イ
115	棚田石垣	20.0m	白馬村大字北城字宮下 17630 番地□
116	棚田石垣	10.0m	白馬村大字北城字ばだ 17302 番地ツ
117	棚田石垣	32.0m	白馬村大字北城字ばだ 17302 番地ヲ
118	棚田石垣	38.0m	白馬村大字北城字ばだ 17302 番地ハ
119	棚田石垣	23.0m	白馬村大字北城字ばだ 17302 番地 1
120	棚田石垣	20.0m	白馬村大字北城字ばだ 17302 番地ホ
121	棚田石垣	20.0m	白馬村大字北城字ばだ 17302 番地ハ～□
122	棚田石垣	6.0m	白馬村大字北城字ばだ 17302 番地□
123	棚田石垣	115.0m	白馬村大字北城字宮ノ袖 17300 番地
124	棚田石垣	85.0m	白馬村大字北城字十二 17336 番地～休石 17338 番地
125	棚田石垣	19.0m	白馬村大字北城字馬場道上 17403 番地

## 建築物

保存番号	種別	員数	所在地
1	主屋	1 棟	白馬村大字北城 16759 番地
2	主屋	1 棟	白馬村大字北城 16758 番地
3	蔵	1 棟	白馬村大字北城字井戸尻 16828 番地 1
4	主屋	1 棟	白馬村大字北城 16744 番地
5	主屋	1 棟	白馬村大字北城 16932 番地 1
6	消防小屋	1 棟	白馬村大字北城 17507 番地 2
7	主屋	1 棟	白馬村大字北城 17508 番地
8	主屋	1 棟	白馬村大字北城 17510 番地
9	土蔵	1 棟	白馬村大字北城 17510 番地
10	主屋	1 棟	白馬村大字北城 17511 番地
11	土蔵	1 棟	白馬村大字北城字前田 17667 番地イ
12	主屋	1 棟	白馬村大字北城 17641 番地
13	土蔵	1 棟	白馬村大字北城字前田 17668 番地
14	主屋	1 棟	白馬村大字北城 17640 番地
15	主屋	1 棟	白馬村大字北城 17620 番地
16	土蔵	1 棟	白馬村大字北城 17620 番地
17	主屋	1 棟	白馬村大字北城 17637 番地
18	土蔵	1 棟	白馬村大字北城 17637 番地
19	主屋	1 棟	白馬村大字北城 17514 番地
20	主屋	1 棟	白馬村大字北城 17636 番地
21	土蔵	1 棟	白馬村大字北城字庭麻 17634 番地 1
22	主屋	1 棟	白馬村大字北城字家裏 17516 番地 1
23	物置	1 棟	白馬村大字北城字家裏 17428 番地
24	土蔵	1 棟	白馬村大字北城 17506 番地 1
25	青鬼神社本殿覆屋	1 棟	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
26	青鬼神社本殿	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
27	諏訪社覆屋	1 棟	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
28	諏訪社本殿	1 基	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地
29	神楽殿	1 棟	白馬村大字北城字善鬼堂 17446 番地

## 工作物

保存番号	種別	員数	所在地
30	向麻石仏群	29 基	白馬村大字北城 16930 番地
31	棚田石垣	29.0m	白馬村大字北城字井戸尻 16905 番地～16930 番地
32	石垣	11.0m	白馬村大字北城字井戸尻 16828 番地 1
33	石垣	32.0m	白馬村大字北城 16758 番地～16759 番地
34	石垣	12.0m	白馬村大字北城 16758 番地
35	石垣	12.0m	白馬村大字北城 16744 番地
36	馬頭観音	2 体	白馬村大字北城 16744 番地
37	石垣	12.0m	白馬村大字北城 16744 番地
38	石垣	14.0m	白馬村大字北城 16744 番地～神戸 16952 番地 1
39	氏神様	1 基	白馬村大字北城字江戸 16735 番地イ
40	石垣	12.0m	白馬村大字北城字ばだ 16735 番地□～中麻 17502 番地
41	阿弥陀堂内陣	1 基	白馬村大字北城字旧堂地 16935 番地
42	石垣	20.0m	白馬村大字北城字旧堂地 16935 番地
43	阿弥陀堂石仏群	33 基	白馬村大字北城字旧堂地 16935 番地
44	氏神様	1 基	白馬村大字北城字西平 16717 番地
45	石垣	8.0m	白馬村大字北城 16934 番地
46	石垣	16.0m	白馬村大字北城 16932 番地 1
47	氏神様	1 基	白馬村大字北城字大麻 17488 番地 20
48	氏神様	1 基	白馬村大字北城字大麻 17488 番地 10
49	稻荷社	1 基	白馬村大字北城字大麻 17488 番地 4
51	石垣	23.0m	白馬村大字北城 17508 番地
52	石垣	12.0m	白馬村大字北城 17508 番地
53	石垣	45.0m	白馬村大字北城 17507 番地 2～17510 番地
54	石垣	25.0m	白馬村大字北城 17510 番地
55	石垣	16.0m	白馬村大字北城 17510 番地
56	馬頭観音	2 体	白馬村大字北城 17506 番地 1
57	馬頭観音	1 体	白馬村大字北城字前田 17666 番地イ
58	棚田石垣	16.0m	白馬村大字北城字前田 17666 番地イ
59	石垣	17.0m	白馬村大字北城字前田 17667 番地イ

保存地区内物件一覧

保存番号	種別	員数	所在地
193	棚田石垣	20.0m	白馬村大字北城字京塚 17407 番地
194	棚田石垣	38.0m	白馬村大字北城字京塚 17404 番地
195	棚田石垣	134.0m	白馬村大字北城字京塚 17408 番地～十二 17211 番地
196	棚田石垣	57.0m	白馬村大字北城字十二 17211 番地
197	棚田石垣	15.0m	白馬村大字北城字十二 17212 番地
198	棚田石垣	32.0m	白馬村大字北城字十二 17214 番地～ 17356 番地
199	棚田石垣	55.0m	白馬村大字北城字十二 17214 番地～ 17357 番地
200	棚田石垣	32.0m	白馬村大字北城字十二 17424 番地□
201	棚田石垣	32.0m	白馬村大字北城字十二 17217 番地～ 17357 番地
202	棚田石垣	20.0m	白馬村大字北城字十二 17216 番地～ 17217 番地
203	棚田石垣	30.0m	白馬村大字北城字丸畑 17289 番地イ～宮上 17564 番地
204	棚田石垣	26.0m	白馬村大字北城字丸畑 17289 番地□～宮上 17564 番地
205	棚田石垣	14.0m	白馬村大字北城字清水畑 17236 番地
206	棚田石垣	33.0m	白馬村大字北城字清水畑 17231 番地～三百地 17579 番地
207	棚田石垣	51.0m	白馬村大字北城字三百地 17569 番地～ 17571 番地
208	棚田石垣	14.0m	白馬村大字北城字ビタイ 17225 番地
209	棚田石垣	15.0m	白馬村大字北城字ビタイ 17222 番地 1
210	棚田石垣	12.0m	白馬村大字北城字三百地 17575 番地
211	棚田石垣	30.0m	白馬村大字北城字三百地 17576 番地 1
212	棚田石垣	35.0m	白馬村大字北城字ビタイ 17224 番地
213	棚田石垣	18.0m	白馬村大字北城字ビタイ 17222 番地 1
214	棚田石垣	41.0m	白馬村大字北城字ビタイ 17222 番地イ～三百地 17576 番地□
215	棚田石垣	22.0m	白馬村大字北城字中段 17312 番地～ 17314 番地
216	棚田石垣	20.0m	白馬村大字北城字岩倉 17197 番地
217	棚田石垣	18.0m	白馬村大字北城字ビタイ 17208 番地
218	棚田石垣	13.0m	白馬村大字北城字岩倉 17183 番地
219	石垣	47.0m	白馬村大字北城字岩倉 17190 番地～ 17196 番地
220	石垣	20.0m	白馬村大字北城字岩倉 17262 番地□
221	棚田石垣	48.0m	白馬村大字北城字牧ノ平 17160 番地イ
222	棚田石垣	43.0m	白馬村大字北城字牧ノ平 17160 番地□
223	棚田石垣	24.0m	白馬村大字北城字牧ノ平 17163 番地
224	馬頭観音	1体	白馬村大字北城字清水入 17158 番地
225	馬頭観音	2体	白馬村大字北城字清水入 17158 番地
226	棚田石垣	50.0m	白馬村大字北城字牧ノ平 17839 番地リ
227	棚田石垣	80.0m	白馬村大字北城字牧ノ平 17839 番地ナ～ 17839 番地ト
228	棚田石垣	43.0m	白馬村大字北城字牧ノ平 17839 番地□
229	青鬼上堰	3km	白馬村大字北城字牧ノ平 17158 番地ハ先
230	青鬼下堰	3km	白馬村大字北城字牧ノ平 17158 番地ハ先

環境物件

保存番号	種別	員数	所在地
231	ホウノキ	1	白馬村大字北城字西林 16501 番地
232	スギの大木	2本	白馬村大字北城字大麻 17488 番地 10
233	カツラの木	1本	白馬村大字北城字杉ノ木麻 17480 番地先
234	桂の清水	1	白馬村大字北城字杉ノ木麻 17480 番地先
235	抜け止めのカツラ	1	白馬村大字北城字前田 17667 番地ル
236	馬場の清水	1	白馬村大字北城字宮ノ根 17609 番地先

保存番号	種別	員数	所在地
126	棚田石垣	19.0m	白馬村大字北城字休石 17339 番地～馬場道上 17351 番地イ
127	棚田石垣	18.0m	白馬村大字北城字十二 17336 番地
128	棚田石垣	24.0m	白馬村大字北城字西豆久保 17373 番地□
129	棚田石垣	21.0m	白馬村大字北城字西豆久保 17373 番地イ
130	棚田石垣	54.0m	白馬村大字北城字休石 17347 番地～西豆久保 17364 番地
131	棚田石垣	60.0m	白馬村大字北城字宮上 17583 番地～宮ノ根 17601 番地
132	棚田石垣	40.0m	白馬村大字北城字古屋敷 17557 番地～宮上 17583 番地
133	棚田石垣	28.0m	白馬村大字北城字宮上 17543 番地～ 17590 番地イ
134	棚田石垣	71.0m	白馬村大字北城字宮ノ袖 17294 番地～宮上 17543 番地
135	棚田石垣	33.0m	白馬村大字北城字宮上 17546 番地
136	棚田石垣	74.0m	白馬村大字北城字宮ノ上 17292 番地～宮ノ根 17601 番地
137	棚田石垣	64.0m	白馬村大字北城字丸畑 17284 番地～宮ノ根 17601 番地
138	棚田石垣	32.0m	白馬村大字北城字宮ノ袖 17294 番地～古屋敷 17557 番地
139	棚田石垣	32.0m	白馬村大字北城字宮ノ袖 17294 番地
140	棚田石垣	21.0m	白馬村大字北城字宮ノ袖 17293 番地
141	棚田石垣	48.0m	白馬村大字北城字宮ノ上 17276 番地～宮ノ袖 17298 番地
142	棚田石垣	15.0m	白馬村大字北城字宮ノ上 17281 番地
143	棚田石垣	66.0m	白馬村大字北城字宮ノ上 17277 番地～ 17278 番地
144	棚田石垣	23.0m	白馬村大字北城字宮ノ上 17282 番地
145	棚田石垣	35.0m	白馬村大字北城字宮ノ上 17272 番地
146	棚田石垣	78.0m	白馬村大字北城字宮ノ上 17272 番地～宮上 17549 番地
147	棚田石垣	43.0m	白馬村大字北城字丸畑 17253 番地～ 17254 番地
148	棚田石垣	37.0m	白馬村大字北城字丸畑 17291 番地
149	棚田石垣	7.0m	白馬村大字北城字宮ノ上 17279 番地～宮上 17549 番地
150	棚田石垣	22.0m	白馬村大字北城字岩倉 17265 番地
151	棚田石垣	88.0m	白馬村大字北城字丸畑 17257 番地～ 17284 番地
152	棚田石垣	17.0m	白馬村大字北城字丸畑 17250 番地～ 17286 番地
153	棚田石垣	38.0m	白馬村大字北城字丸畑 17251 番地
154	棚田石垣	16.0m	白馬村大字北城字丸畑 17249 番地
155	棚田石垣	37.0m	白馬村大字北城字丸畑 17249 番地～ 17256 番地
156	棚田石垣	47.0m	白馬村大字北城字丸畑 17246 番地～ 17247 番地
157	棚田石垣	32.0m	白馬村大字北城字丸畑 17253 番地
158	棚田石垣	20.0m	白馬村大字北城字丸畑 17246 番地～ 17247 番地
159	棚田石垣	77.0m	白馬村大字北城字丸畑 17241 番地イ～ 17245 番地
160	棚田石垣	20.0m	白馬村大字北城字京塚峯 17398 番地 1
161	棚田石垣	47.0m	白馬村大字北城字休石 17397 番地～京塚 17409 番地
162	観音様	1基	白馬村大字北城字京塚 17409 番地
163	馬頭観音	1基	白馬村大字北城字京塚 17409 番地
164	石垣	83.0m	白馬村大字北城字京塚 17396 番地～京塚峯 17398 番地 1
165	棚田石垣	33.0m	白馬村大字北城字京塚 17410 番地イ
166	棚田石垣	31.0m	白馬村大字北城字西豆久保 17387 番地イ
167	棚田石垣	25.0m	白馬村大字北城字京塚 17396 番地
168	棚田石垣	33.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17423 番地
169	棚田石垣	43.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17422 番地
170	棚田石垣	35.0m	白馬村大字北城字豆久保 17389 番地～ 17390 番地
171	棚田石垣	48.0m	白馬村大字北城字西豆久保 17385 番地
172	棚田石垣	37.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17395 番地
173	棚田石垣	56.0m	白馬村大字北城字西豆久保 17384 番地～ 17385 番地
174	棚田石垣	63.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17360 番地～ 17394 番地イ
175	棚田石垣	30.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17382 番地イ-2
176	棚田石垣	35.0m	白馬村大字北城字豆久保 17391 番地イ～中豆久保 17393 番地
177	棚田石垣	35.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17391 番地□
178	棚田石垣	8.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17394 番地イ
179	棚田石垣	15.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17414 番地
180	棚田石垣	45.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17413 番地イ-2～ 17416 番地□
181	棚田石垣	16.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17416 番地イ
182	棚田石垣	16.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17417 番地
183	棚田石垣	40.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17417 番地～西豆久保 17425 番地ハ
184	棚田石垣	15.0m	白馬村大字北城字西豆久保 17425 番地ハ
185	棚田石垣	10.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17418 番地～ 17425 番地□
186	棚田石垣	95.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17418 番地～ 17419 番地、17425 番地□
187	棚田石垣	18.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17415 番地～ 17418 番地、17425 番地□
188	棚田石垣	65.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17420 番地
189	棚田石垣	54.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17421 番地
190	棚田石垣	74.0m	白馬村大字北城字中豆久保 17421 番地
191	地蔵	1体	白馬村大字北城字中豆久保 17421 番地
192	棚田石垣	46.0m	白馬村大字北城字京塚 17407 番地～ 17408 番地

白馬村青鬼重要伝統的建造物群保存地区選定20周年記念誌  
白馬村青鬼 保存のあゆみ

令和3年3月発行

編集 白馬村教育委員会

発行 白馬村

印刷 DESIGN / PRINT SHOP COVS